

福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の  
貯蔵及び処理の状況について（第 189 報）【修正版】

平成 27 年 2 月 25 日  
東京電力株式会社

1. はじめに

本書は、平成 23 年 6 月 9 日付「東京電力株式会社福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備等の設置について（指示）」（平成 23・06・08 原院第 6 号）にて、指示があった以下の内容について報告するものである。

【指示内容】

汚染水の処理設備の稼働後速やかに、同発電所内の汚染水の貯蔵及び処理の状況並びに当該状況を踏まえた今後の見通しについて当院に報告すること。また、その後、集中廃棄物処理建屋内の汚染水の処理が終了するまで、一週間に一度当院に対して、同様の報告を実施すること。

2. 建屋内滞留水の貯蔵及び処理の状況（実績）

2 月 19 日現在の各建屋内（1～4 号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設における貯蔵量、処理量等は添付資料-1 の通り。

3. 貯蔵及び処理の今後の見通し

(1) 短期見通し

移送については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量、放射能処理装置の稼働状況を踏まえ、1, 2 号機及び 3, 4 号機の建屋内滞留水水位が OP. 3, 000 前後で維持するように計画する。移送先については、滞留水貯蔵施設であるプロセス主建屋または高温焼却炉建屋とする。

また、処理については、滞留水貯蔵施設の貯蔵量及び移送の状況を踏まえ、実施することとする。

2 月 26 日想定 of 各建屋内（1～4 号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設における貯蔵量、処理量等は添付資料-2 の通り。

(2) 中期見通し

1, 2 号機及び 3, 4 号機の建屋内滞留水については、海洋への放り出し及び地下水

への漏えいリスクを低減させる観点から、建屋内滞留水の OP. 4,000 到達までの余裕を確保し、建屋内滞留水水位を地下水位よりも低く管理することが必要である。一方で、地下水の流入量を抑制し、建屋内滞留水の発生量を減少させるという観点から、建屋内滞留水水位を当面 OP. 3,000 前後で維持するように、滞留水貯蔵施設の貯蔵容量を踏まえて移送を計画する。

また、プロセス主建屋及び高温焼却炉建屋の滞留水については、中低レベル用処理水受タンクの設置状況や放射能処理装置の稼働率、メンテナンス期間を踏まえて、処理を計画する。

各建屋内（1～4号機（復水器、トレンチを含む））における貯蔵量及び滞留水貯蔵施設における貯蔵及び処理状況の3ヶ月後までの見通しは添付資料-3の通り。

各建屋内及び滞留水貯蔵施設の貯蔵量は、降雨の影響がないと仮定すると、移送及び処理を実施することにより、ほぼ一定で推移する見込みであるが、放射能処理装置の稼働率等により変更の可能性はある。

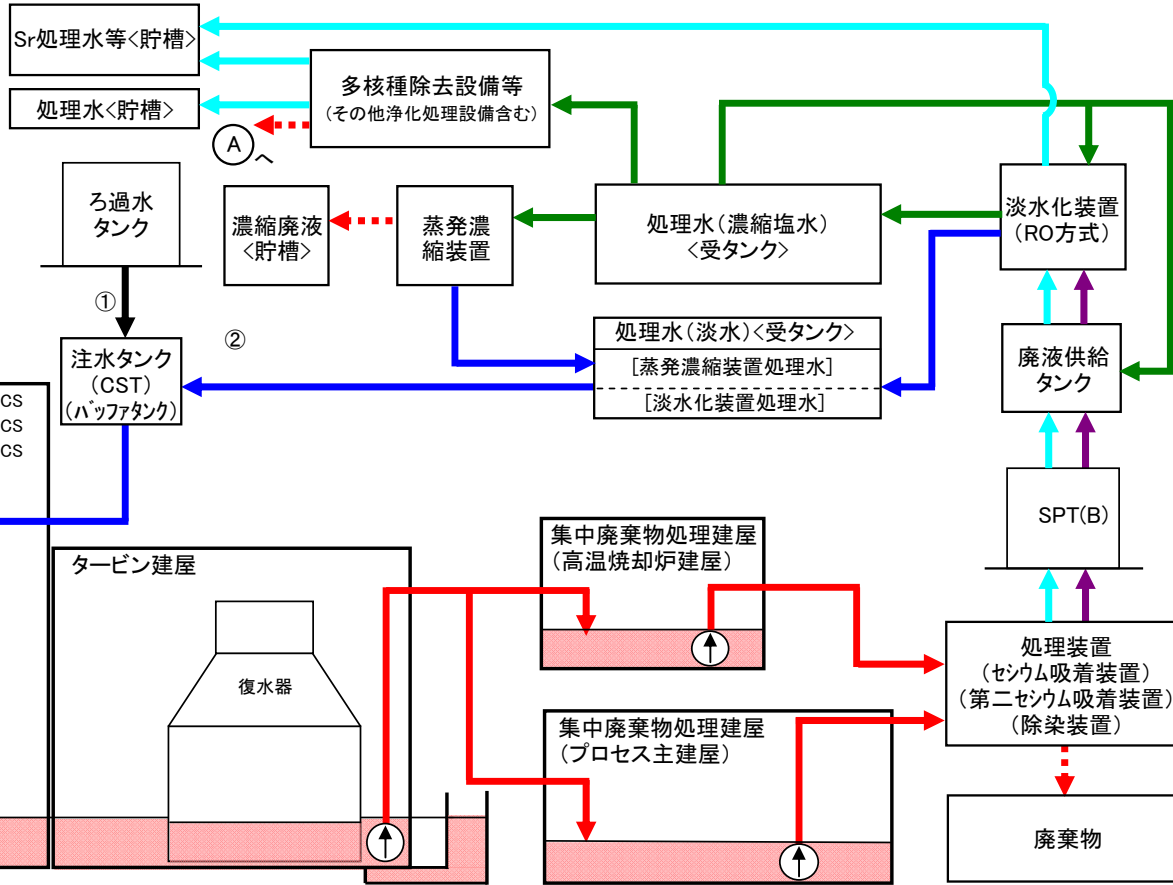
また、放射能処理装置で処理した水（淡水及び濃縮塩水）は、中低レベル用処理水受タンクにより貯蔵可能である。

以 上

# 高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【H27.2.19現在】

区分	
— / - - -	高レベル水/廃棄物、濃縮廃液
—	処理水(塩水)
—	処理水(濃縮塩水)
—	処理水(淡水)
—	多核種除去設備等処理済水
—	淡水

原子炉注水量(2/13-2/19)	前回報告比
①ろ過水	-
②処理水(淡水)	2,190m <sup>3</sup> +22m <sup>3</sup>
累積処理水	542,595m <sup>3</sup>

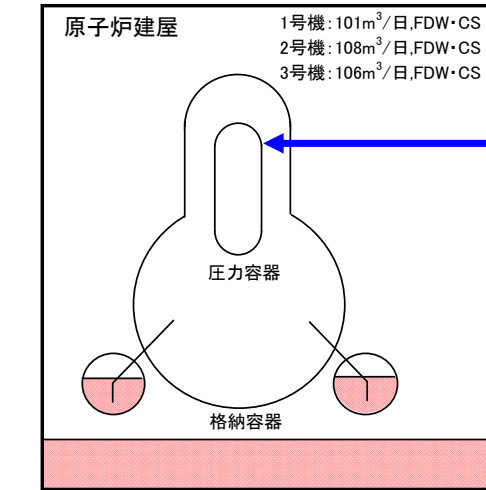


水種別の貯蔵量 ※1	前回報告比	貯蔵容量 ※2.3
濃縮塩水※4	217,286m <sup>3</sup> ▲14,109m <sup>3</sup>	345,600m <sup>3</sup>
淡水	23,435m <sup>3</sup> ▲122m <sup>3</sup>	27,500m <sup>3</sup>
濃縮廃液	8,891m <sup>3</sup> 変化なし	20,000m <sup>3</sup>
処理水	314,330m <sup>3</sup> +7,434m <sup>3</sup> *1	329,900m <sup>3</sup>
Sr処理水等	45,391m <sup>3</sup> +11,236m <sup>3</sup>	57,900m <sup>3</sup>

貯蔵量	前回報告比	貯蔵容量 ※2
廃液供給タンク	731m <sup>3</sup> +12m <sup>3</sup>	1,200m <sup>3</sup>
SPT(B)	1,257m <sup>3</sup> +400m <sup>3</sup>	3,100m <sup>3</sup>

	塩素濃度
淡水化処理前 / 処理後	540ppm / 3ppm (2/10採取)
蒸発濃縮処理前 / 処理後	-

試料採取箇所	試料濃度 ※5
プロセス主建屋	2.2E+04 Bq/cm <sup>3</sup> (2/10採取)
セシウム吸着装置出口	1.7E-01 Bq/cm <sup>3</sup> (2/10採取)
除染装置出口	-
高温焼却炉建屋	2.5E+04 Bq/cm <sup>3</sup> (2/17採取)
第二セシウム吸着装置出口	2.6E+00 Bq/cm <sup>3</sup> (2/17採取)



施設	貯蔵量	前回報告比	T/B建屋内水位
1号機	約13,200m <sup>3</sup>	変化なし	OP.2,431
2号機	約15,200m <sup>3</sup>	▲900m <sup>3</sup>	OP.2,479
3号機	約19,100m <sup>3</sup>	▲400m <sup>3</sup>	OP.2,552
4号機	約15,000m <sup>3</sup>	▲100m <sup>3</sup>	OP.2,565
合計	約62,500m <sup>3</sup>		

貯蔵施設	貯蔵量	前回報告比	水位	処理量 (2/13-2/19)	累積処理量	廃棄物発生量	前回報告比	保管容量
プロセス主建屋	約16,390m <sup>3</sup>	+1,470m <sup>3</sup>	OP.4,633	約6,330m <sup>3</sup> ※6	約1,163,870m <sup>3</sup> ※6	廃スラッジ 597m <sup>3</sup>	変化なし	700m <sup>3</sup> ※2
高温焼却炉建屋	約3,390m <sup>3</sup>	▲970m <sup>3</sup>	OP.2,002			使用済ベッセル 1,846本 ※7	+52本	4,469本
合計	約19,780m <sup>3</sup>							

- ※1 水移送中の水位は静定しないため参考値扱い
- ※2 運用上の上限値
- ※3 地下貯水槽を含まない
- ※4 ろ過水タンクの貯蔵容量(4,600m<sup>3</sup>)を含む
- ※5 表記はCs-137のデータ
- ※6 セシウム吸着装置及び第二セシウム吸着装置の合計処理量  
処理量の内訳: セシウム吸着装置(2,900m<sup>3</sup>)、第二セシウム吸着装置(3,430m<sup>3</sup>)  
累積処理量の内訳: セシウム吸着装置(261,290m<sup>3</sup>)、第二セシウム吸着装置(902,580m<sup>3</sup>)
- ※7 使用済ベッセルの内訳: セシウム吸着装置使用済ベッセル(570本)  
第二セシウム吸着装置使用済ベッセル(121本)  
その他: 保管容器(1,069基)  
処理カラム(3塔)  
使用済ベッセル(59本)  
フィルタ類(24本)

【前回報告時点(H27.2.12)～現在の主なイベント】

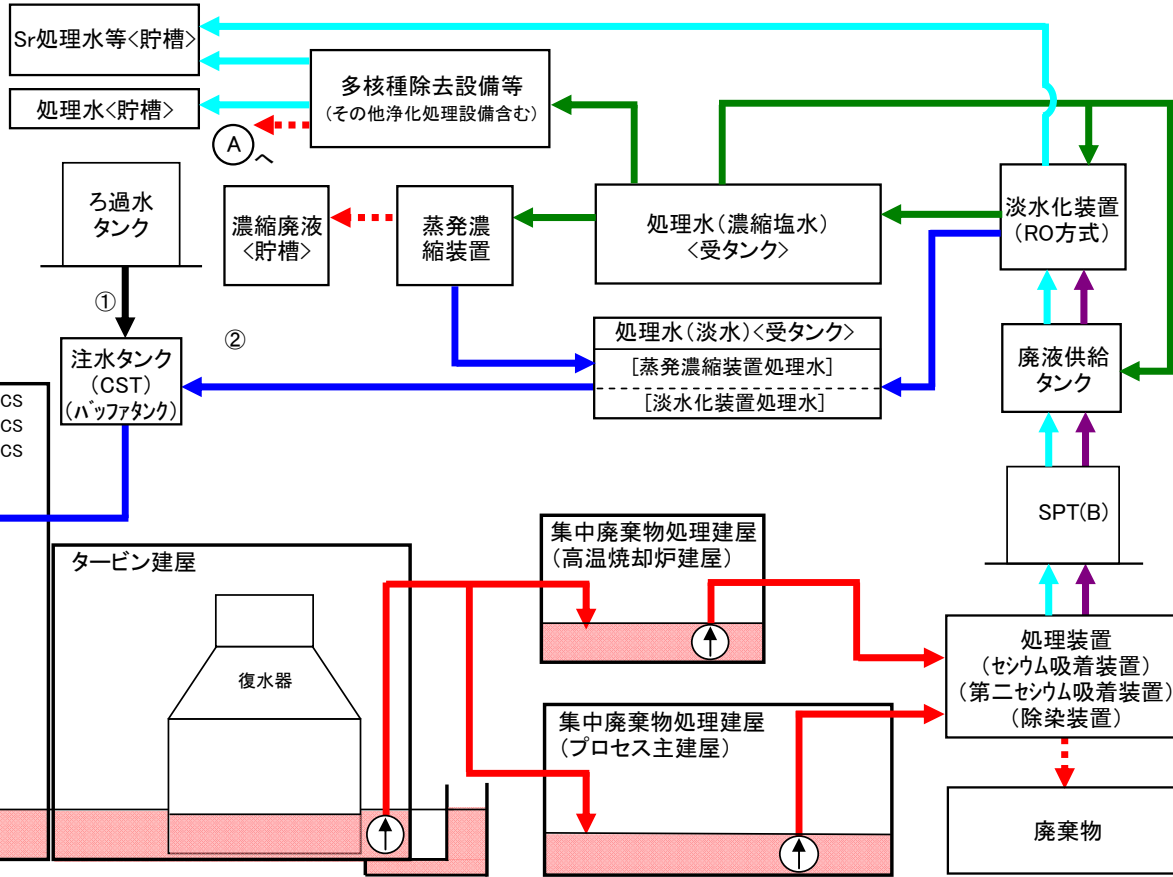
- ・2/12 2号機から高温焼却炉建屋への移送を再開。2/15 2号機の移送先を高温焼却炉建屋から3号機タービン建屋に切替。
- ・2/17 2号機の移送先を3号機タービン建屋から高温焼却炉建屋に切替。切替後の移送を実施中
- ・3号機からプロセス主建屋への移送を実施中
- ・セシウム吸着装置と第二セシウム吸着装置の運転を実施  
(セシウム吸着装置 稼働率: 34.5%(前回想定稼働率: 40%)/第二セシウム吸着装置 稼働率: 40.8%(前回想定稼働率: 40%))
- ・2/12 第二セシウム吸着装置の運転を再開
- ・タンク運用による「濃縮塩水」「処理水」「Sr処理水等」の貯蔵容量の変更

\*1 誤記訂正

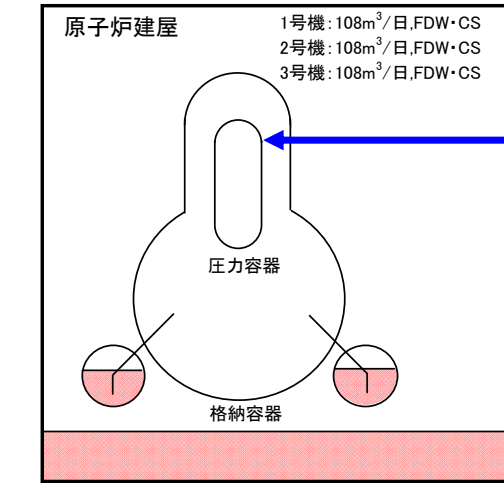
# 高レベル滞留水の貯蔵及び処理の状況【H27.2.26想定】

区分	
— / - . . .	高レベル水/廃棄物、濃縮廃液
—	処理水(塩水)
—	処理水(濃縮塩水)
—	処理水(淡水)
—	多核種除去設備等処理済水
—	淡水

原子炉注水量(2/20-2/26)	今回報告比
①ろ過水	-
②処理水(淡水)	2,268m <sup>3</sup> +78m <sup>3</sup>
累積処理水	544,863m <sup>3</sup>



水種別の貯蔵量	今回報告比	貯蔵容量 ※1.2
濃縮塩水※3	201,773m <sup>3</sup> ▲15,513m <sup>3</sup>	345,600m <sup>3</sup>
淡水	22,511m <sup>3</sup> ▲924m <sup>3</sup>	27,500m <sup>3</sup>
濃縮廃液	8,891m <sup>3</sup> 変化なし	20,000m <sup>3</sup>
処理水	326,309m <sup>3</sup> +11,979m <sup>3</sup>	329,900m <sup>3</sup>
Sr処理水等	51,807m <sup>3</sup> +6,416m <sup>3</sup>	57,900m <sup>3</sup>



施設	貯蔵量	今回報告比	T/B建屋内水位
1号機	約13,300m <sup>3</sup>	+100m <sup>3</sup>	OP.2.674 (2号機T/B)
2号機	約16,500m <sup>3</sup>	+1,300m <sup>3</sup>	
3号機	約18,800m <sup>3</sup>	▲300m <sup>3</sup>	OP.2.541 (3号機T/B)
4号機	約14,800m <sup>3</sup>	▲200m <sup>3</sup>	
合計	約63,400m <sup>3</sup>		

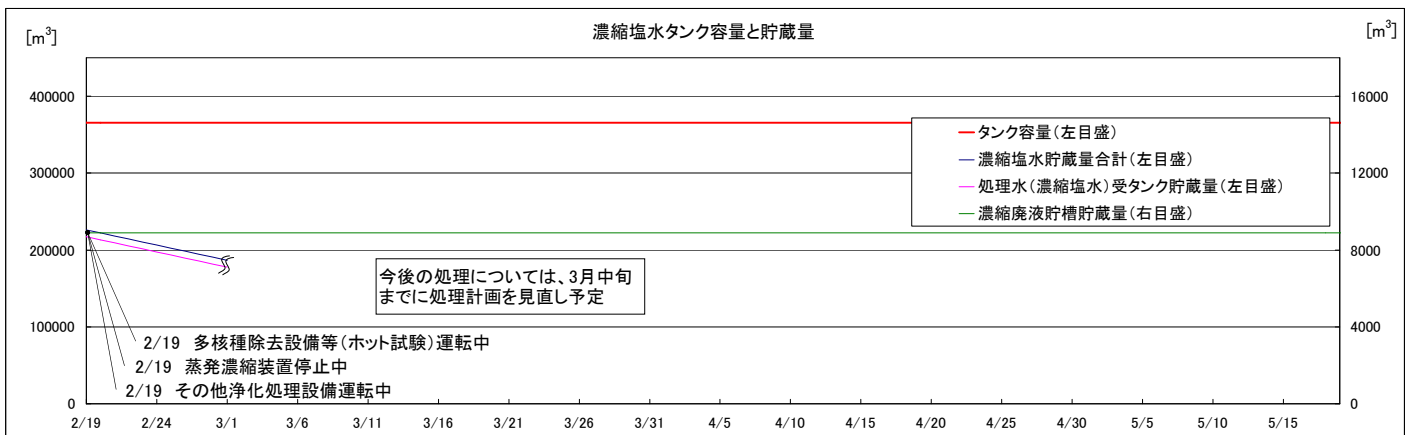
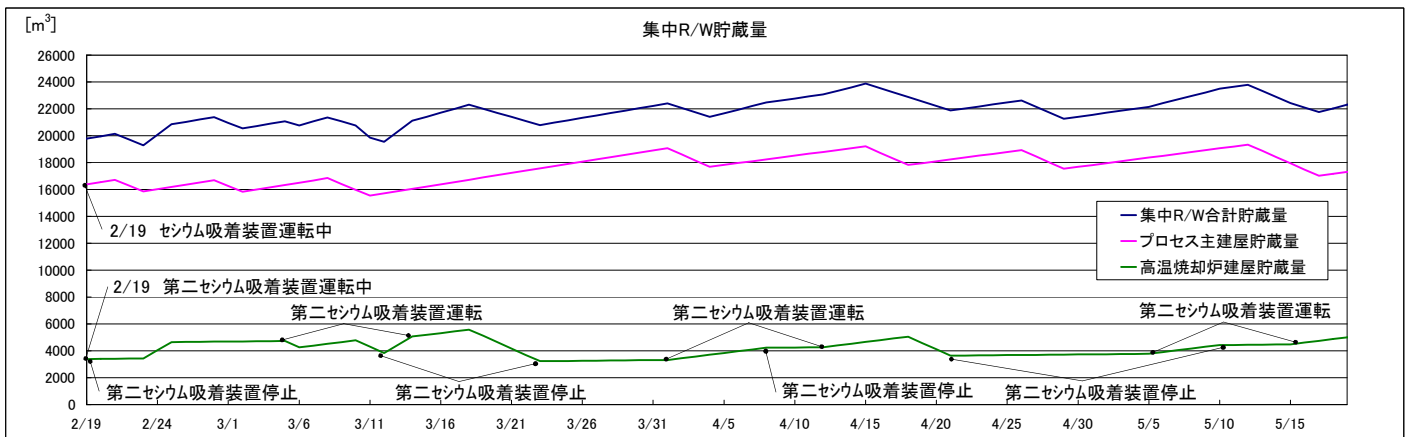
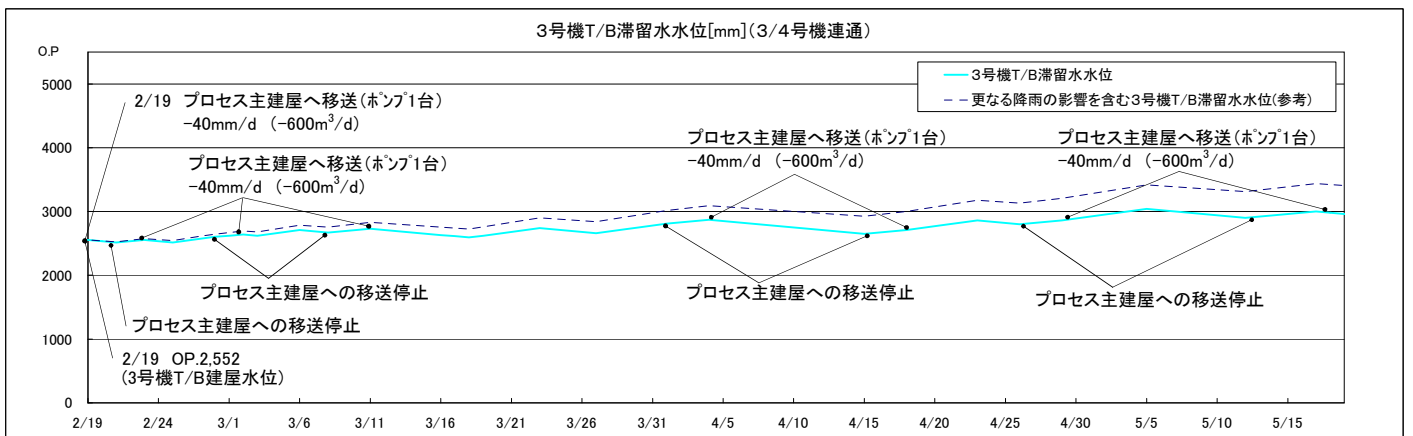
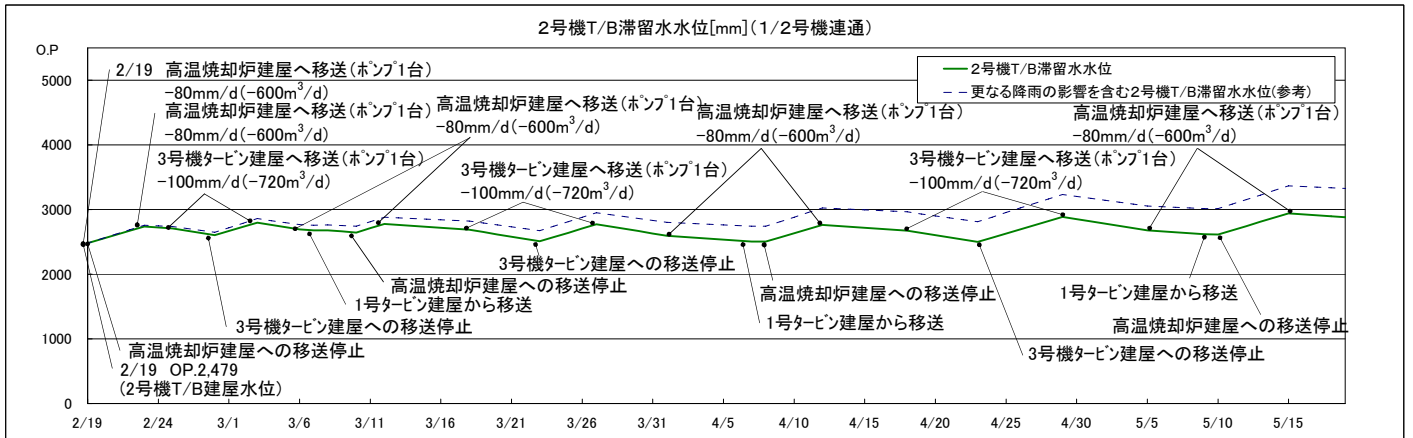
貯蔵施設	貯蔵量	今回報告比	水位	処理量 (2/20-2/26)	累積処理量	廃棄物発生量	今回報告比	保管容量
プロセス主建屋	約16,060m <sup>3</sup>	▲330m <sup>3</sup>	OP.4.539	約3,360m <sup>3</sup> ※4	約1,167,230m <sup>3</sup> ※4	廃スラッジ 597m <sup>3</sup>	変化なし	700m <sup>3</sup> ※1
高温焼却炉建屋	約4,840m <sup>3</sup>	+1,450m <sup>3</sup>	OP.3.197			使用済ベッセル 1,904本 ※5	+58本	4,469本
合計	約20,900m <sup>3</sup>							

【現在(H27.2.19)～想定の主なイベント】

- ・2号機から高温焼却炉建屋への移送を停止予定。2号機から高温焼却炉建屋への移送を再開予定。2号機の移送先を高温焼却炉建屋から3号機タービン建屋に切替予定
- ・3号機からプロセス主建屋への移送を停止予定。3号機からプロセス主建屋への移送を再開予定
- ・セシウム吸着装置の運転を予定(想定稼働率40%)
- ・第二セシウム吸着装置の停止を予定
- ・3号機海水配管トレンチへのグラウト材の充填に伴う水抜きを随時実施予定

※1 運用上の上限値  
 ※2 地下貯水槽を含まない  
 ※3 ろ過水タンクの貯蔵容量(4,600m<sup>3</sup>)を含む  
 ※4 セシウム吸着装置及び第二セシウム吸着装置の合計処理量  
 処理量の内訳: セシウム吸着装置(3,360m<sup>3</sup>)、第二セシウム吸着装置(0m<sup>3</sup>)  
 累積処理量の内訳: セシウム吸着装置(264,650m<sup>3</sup>)、第二セシウム吸着装置(902,580m<sup>3</sup>)  
 ※5 使用済ベッセルの内訳: セシウム吸着装置使用済ベッセル(578本)、  
 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル(121本)  
 その他: 保管容器(1,111基)  
 処理カラム(3塔)  
 使用済ベッセル(65本)  
 フィルタ類(26本)

# 1~4号機T/B滞留水処理シミュレーション結果



注記

- ・処理装置の処理量は、720m<sup>3</sup>/dと想定(T/B滞留水水位等の状況により処理量を変更)
- ・「T/B滞留水水位」は、福島第一原子力発電所近傍における最近の降雨及び地下水などの流入による水位変動状況を考慮したシミュレーション
- ・「更なる降雨の影響を含むT/B滞留水水位」は、福島第一原子力発電所近傍における8~10月の過去3年間(H20~H22)の平均降雨量の降雨があった場合の水位変動分(5mm/日)を「T/B滞留水水位」に加算したシミュレーション